

2008年2月26日開催 第525回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 大村英昭委員 國定浩一委員
神谷徹委員 黒田勇委員 藤原健委員

■ 毎日放送出席者

山本会長 河内社長 田中専務 上田専務 山西常務 松島常務
西岡ラジオ局長 東編成局長 熊報道局長 木田コンプライアンス室長
三村制作局長 新堂プロデューサー

◆ テレビ番組「ジャイケルマクソン」

2月13日(水) 23:55~24:55

2月20日(水) 24:15~25:15

第525回番組審議会は2月26日に開かれ、テレビ番組「ジャイケルマクソン」を審議しました。

「おもしろいことを一生懸命追求する番組」をコンセプトに、毎週水曜の深夜に放送の1時間のバラエティー番組。

毎週さまざまな企画で放送していますが、漫才「中川家」が生まれ故郷大阪・守口市を訪れ、生い立ちを振り返る企画を2本、あわせて2時間にわたって放送したものを中心に審議しました。

委員の主な意見は次の通り。

*中川家の生い立ちを振り返る中で、守口の下町の雰囲気、いろいろなおっちゃんやおばちゃんとの温かい交流が見えてよかった。

*中川家はさりげない市井のおっちゃん、おばちゃんのまねがリアルでおもしろい。現場に足を運んで、自分の目で見て、芸に生かしている。そうした中川家の2時間の番組はすごくおもしろかった。

* 「大阪の人はおもしろい」とよく言われるが、吉本の笑い、吉本文化が浸透した結果、一般の人が笑いを自発的に演じるようになってきている。いわば素人の無理した演技。そろそろ大阪のおもしろさ、町のおもしろさを考え直し、発掘してほしい。

* 今、中学生、高校生で吉本にあこがれている人が多いが、中川家の成長の記録の中で、「これはすごい。とてもこんなまねはできない」というのがあってもよかった。そういうところを一番知りたかった。

* どういうきっかけで、どういう心の動きがあって、中川家が芸人の道を目指したのか。一番多感な高校時代の3年間がなくて、そういう心の軌跡が見えなかった。

* 全体的にはすごくおもしろかった。ホームページで番組のラインアップを見たが、バラエティーに富んでいる。企画を立てるのは大変だと思うが、バラエティーに富んだ企画がずっと続くことが、番組がおもしろく続いていくことの大きな要因だと思う。頑張してほしい。

* 若い世代をターゲットにした番組だが、「笑いは人の生活に欠かせない。笑いを求める人は年齢と関係なく大勢いる」ということも念頭に置いてほしい。

◆ 1月30日に制定された「毎日放送グループ・コンプライアンス憲章」についてコンプライアンス室長が報告しました。